

県議会議員

いおくニュース

2015年4月号



■プロフィール■

猪奥美里 (いおく みさと)

1980年奈良市秋篠町生まれ

34歳・O型・うお座

平城小学校・平城中学校／ドイツギムナジウムジューケ留学／奈良大学附属高等学校／立命館大学・立命館大学大学院(環境経済学専攻)／衆議院議員秘書
2011年奈良県議会議員初当選
2015年4月12日2期目当選

◆ 2期目当選 ◆

4月12日に投票日を迎えた奈良県議会議員選挙において、11661票を頂戴し、2期目の当選を果たす事が出来ました。1期目より2730票も多くの方に投票していただいた事に感謝にたえません。寄せていただいたご期待に叶うよう、全力で奈良県政に取り組めます。

2015年11661票 (7.67%)

2011年9931票 (6.31%)

2011年▶2015年

得票 +2730票

得票率 +1.36ポイント

■ 選挙戦での訴え

生活者、普通の市民の目線立場で医療や子育て支援等、私たちの暮らしに密着した課題を解決し、暮らしを守る力になると訴えを行いました。

そのためには、これ以上ムダ・ムリを続けて行く訳には行きません。昨年制定した、都道府県では初の罰則規定をもうけた「公契約条例」。流した汗が報われる社会。教育や子育てなど未来への投資にしっかりと予算付けする。

その大前提として、

ムリ・ムダ・口利き政治を打破しないと、奈良県には金銭的な余裕はありません。

さらには、奈良県の旧来からの課題である女性の働く場の創出です。これは単独で行う事業ではなく、子育て支援を両輪として進めなければなりません。両立して行って初めて日本の最大の課題、少子化対策になりうると訴えました。そして、政治の究極の役割「命を守る」そのためER型救急の奈良県での実効性のある導入を訴えました。

■ 政治が変われば暮らしが変わる

今回選挙での奈良市の投票率は低いまま。自分一人が投票しても何も変わらない。決してそんな事はありません。

4年前の県立病院を巡っての議論では、現地立て替えか、それとも新しい場所に建設するのか

が議論のメインテーマでした。この4年の間に、立て替えとあり方が決まりました。

病院は新しく六条山の地区に建設されることが決まり、病院のあり方も、当初案の「一般外来無し。救急車しか受け入れない救急専門の病院」から、「一般外来も受け入れ」へ、更には昨年6月議会での民主党からの提案を受け全国的にもまだ導入事例がまだ少ない「分業体制をとり絶対に受け入れ拒否を起ささないER型救急」設置に向け動き始めました。

まさに政治がかわり、議員からの提案で行政が動いたのです。

■ お約束をしたこと

命を守る

- ・ ER型救急の本格導入
- ・ 予防医学の導入

多様性を持ち柔軟で強い街へ

- ・ 女性の働く場の創出
- ・ 社会で子育てする街へ
- ・ 小水力発電の設置促進
- ・ 林業再生とバイオマス発電の成功事例作り

観光

- ・ 奈良らしさをより活かした周遊型観光の取り組み
- ・ 外国人観光客の受け入れ体制作り

奈良県内でお金が回る仕組みを作り、医療体制を整え「ずっと住み続けられる奈良県」を皆さんと共に作ります。



■プロフィール■

猪奥美里 (いおく みさと)

1980年奈良市秋篠町生まれ

34歳・O型・うお座

平城小学校・平城中学校／ドイツギムナジウムジューケ留学／奈良大学附属高等学校／立命館大学・立命館大学大学院(環境経済学専攻)／衆議院議員秘書
2011年奈良県議会議員初当選
2015年4月12日2期目当選

◆ 2期目当選 ◆

4月12日に投票日を迎えた奈良県議会議員選挙において、11661票を頂戴し、2期目の当選を果たす事が出来ました。1期目より2730票も多くの方に投票していただいた事に感謝にたえません。寄せていただいたご期待に叶うよう、全力で奈良県政に取り組めます。

2015年11661票 (7.67%)
2011年9931票 (6.31%)
2011年▶2015年
得票 +2730票
得票率 +1.36ポイント

■ 選挙戦での訴え

生活者、普通の市民の目線のかかが議論のメインテーマで立場で医療や子育て支援等、した。この4年の間に、立て替私たちの暮らしに密着したと、あり方が決まりました。課題を解決し、暮らしを守る力になると訴えを行いました。

そのためには、これ以上ムダ・ムリを続けて行く訳には行きません。昨年制定した、都道府県では初の罰則規定をもうけた「公契約条例」。流した汗が報われる社会。教育や子育てなど未来への投資にしっかりと予算付けする。その大前提として、ムリ・ムダ・口利き政治を打破しないと、奈良県には金銭的な余裕はありません。

さらには、奈良県の旧来からの課題である女性の働く場の創出です。これは単独で行う事業ではなく、子育て支援を両輪として進めなければなりません。両立して行って初めて日本の最大の課題、少子化対策になりうると訴えました。そして、政治の究極の役割「命を守る」そのためER型救急の奈良県での実効性のある導入を訴えました。

■ 政治が変われば暮らしが変わる

今回選挙での奈良市の投票率は低いまま。自分一人が投票しても何も変わらない。決してそんな事はありません。

4年前の県立病院を巡るの議論では、現地立て替えか、

それぞれとも新しい場所に建設す
病院は新しく六条山の地区に建設されることが決まり、病院のあり方も、当初案の「一般外来無し。救急車しか受け入れない救急専門の病院」から、「一般外来も受け入れ」へ、更には昨年6月議会での民主党からの提案を受け全国的にもまだ導入事例がまだ少ない「分業体制をとり絶対に受け入れ拒否を起こさないER型救急」設置に向け動き始めました。

まさに政治がかわり、議員からの提案で行政が動いたのです。

■ お約束をしたこと
命を守る

- ・ ER型救急の本格導入
- ・ 予防医学の導入
- 多様性を持ち柔軟で強い街へ
- ・ 女性の働く場の創出
- ・ 社会で子育てする街へ
- ・ 小水力発電の設置促進
- ・ 林業再生とバイオマス発電の成功事例作り

観光

- ・ 奈良らしさをより活かした周遊型観光の取り組み
- ・ 外国人観光客の受け入れ体制作り

奈良県内でお金が回る仕組みを作り、医療体制を整え「ずっと住み続けられる奈良県」を皆さんと共に作ります。